取組の柱②:インド太平洋流の課題対処

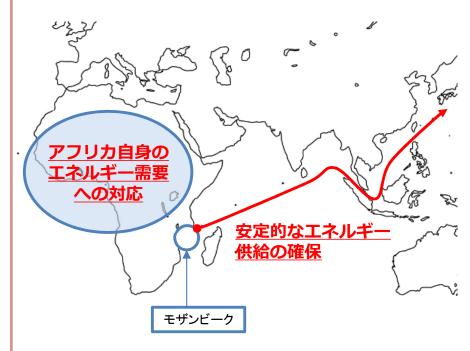
事例22:アフリカにおけるエネルギー安全保障への対応

1. 基本的な考え方

- ●世界全体に占めるアフリカからのエネルギー供給率は上昇傾向。ウクライナ情勢を受け、露の代替供給源としての重要性が高まっている。(世界の天然ガスの全資源量の約13%、石油の全資源量の約7%が埋蔵)
- ●LNGは安定供給とカーボンニュートラル実現に向けたトランジションエネルギーとして必要不可欠。
- この点、モザンビークのLNGプロジェクトは、同国の経済発展に不可欠である ことに加え、欧州へのLNG供給と年間約450万トンの日本へのLNG供給を予定し ており、日本のエネルギー安定供給にも大きく資する案件(日本官民投資案件で アフリカ最大)。
- ⇒アフリカは、エネルギーの供給国かつ需要国。アフリカとのエネルギー協力/ 投資を推進し、日本のエネルギー安全保障を強化。また、積極的な官民投資を通 じた脱炭素化支援も実施。

2. 具体的な取組

- ●エネルギー供給国及び周辺地域の安定に向け、人道支援や開発協力(インフラ整備等)を実施する。
- ●モザンビーク等で日本企業の貿易・投資拡大に向けたビジネス環境整備を行う。
- (例) <u>官民合同ミッション</u>を派遣(注:モザンビーク、モーリシャスは2023年5月目処)。
- ●アフリカ・グリーン成長イニシアティブを推進し、脱炭素化支援を行う。 (例) JCM整備支援、脱炭素関連インフラ支援。



<モザンビークのLNGプロジェクト完成予想図>

